

刊夕日六廿月四



定部一圓五錢... 發行所 常盤山日新聞社... 電話 六三〇

トコ 瞬間享樂

瀧田七郎

所は人も知る松ヶ岡公園
あの蹠蹠の在る蔭の方だ
斜に下の方は櫻花が今を
盛りと咲いて居る。花観る
客は蟻の様にちよろつく。
男と女と唄と三味と酒と
櫻花と光との交響樂が此處
ばかりは不景氣知らずと奏
られて居る。

彼は一人、イキな格好
で薄暗いベンチに腰をかけ
て居る、累の煙が口元から
頭をかすめて消える。
と、夜姫?の出現が彼氏
に近づいた。

彼の女は今流行の錦紗づ
くめだ、肩から胸元へ垂れ
たる薄い、白いシヨール。
「あの……濟みませんが
煙草の火を貸して下さい
ませんか」

彼は大きく開いた眼で
チラット彼女を見た、が、
その美しさに——そう感じ
たが、また、此の女が煙草
を吸ふ??——と不思議が
つた様な驚きで

「ハア……どうぞ……」
と四角ばつた。

彼の出した火の附いた
巻煙草を彼女は、やをら白
魚の様な指で摘んだ。
彼女は二、三度パツパツ

両頬を凹ました、火が付くと
「有難うございました」
玉を轉ばす様な聲で言つた
「ハツ、いゝえ……」
彼はまた固くなつて居る。

彼女は彼のそんな四角
ばつた氣持には無頓着にな
ほも言葉をかける。
「随分賑かですわね」
「え、賑かですわね」
「姜、平つて初めてなの」
「あ、そうですか」
「こんなに櫻が寄麗だとは
思ひませんでしたわ」
「え、遠くから来た方は誰
でもそう云ひます、でもな
れて見ますとさ程に感じま
せんね」

「あら!!!そうか知ら」
彼は話が進むにつれて
落ちて行つた。
「あの、お一人で?」
「え」
「一寸、危険ですね、夜は
……」
「でも、田舎はそんなでな
いでせう」
「そうでもないですよ」
「姜、平氣よ」
「もつとも、まだ、時間が
時間だからね」
「おそくたつて……姜、割
合オキヤンだから……ホホ
ホ……つかれた、一寸かけ
さしてもらうわ」
「ハア、どうぞ」

彼女は彼氏と僅かの間を
置いてベンチに腰を下した
軽く夜風が花を二つ三つ
散らした。

その風がまた彼女の薄い
シヨールも動かした、彼女
の肌から流れる暖い体氣、
それに艶かしい香り、彼は
は夢心地になつて来た。
東京の方の女は皆、こ
う男に對して平氣らしいん
だ。

彼はそう思つた、そし
て、吸ひ終つた煙草を捨て
また新しいのに火を付けた。
花観の人が二、三人近づ
いて来たが二人の姿を見る
と遠慮したのか、また遠ざ
かつて行つた。

大塚の
學生靴!!!

耐久新製品

編上靴 六〇〇
半靴 五〇〇

不安心なるキカイ靴よ
り、安心得る弊店の靴
を……

大塚支製靴部
電話七七番

■ 産名城磐 ■
らか鹽と節鯨

魚問屋

店理代平命生本日大最優最
榮盛賀志
番一二三電 目丁四平

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

平町田町 電話五二三番

配達敏速

堂々……

斯界の群を抜く
最高級車プロモス號
今般増車致しました
何卒御用命は

電話三九五番へ
セリザワタクシー

時は春!
お寫し遊ばせ!
皆様の良い寫眞館

サクラ寫眞館
平町田町【驛前】

◎最新式電氣應用 晝夜撮影
博覽會開期中
特別割引致シマス

玉屋洋品店

平町田町 電話五六六番

御裁縫用具が
澤山入荷致しました
平町丸新デパート
(福島屋靴店隣り)
ハシモトヤ糸店

玉口筆

筆赤高級

ルナミキ萬年筆製造元

特約店 平町公園前 角忠 佐々木商店
電話二三三番

◇昭和産業博覽會本館正面ニ出品
◇御試用ハ弊店ニテ……種類豊富……
◇學生向 二、〇〇ヨリ 紳士向 一七、〇〇

安い! 良い!

總理大臣志望

タツタ一名也

磐中一年生の志望別

多いのは軍人

一 寫眞業一 僧侶一
未定一五

愛谷堰の竣工式順序

磐城中等學校に於ける本年度第一學年生二百五十名の將來の志望を調査する處に依ると一番多いのは時節柄陸軍々人で此の外に總理大臣や鐵道大臣等と云つた調子の實に青雲の志願もしい向もある而し擔任教諭の談に依ると總理大臣志望の多い年は七八名に及ぶさうだから本年の一名は餘り少な過ぎる方で少々心細いと

- 士官學校二五 兵學校一
- 陸軍々人四四 海軍々人一一 飛行家四 上級學校五 高等工業一
- 專門學校一 高等學校四
- 師範二部一 教員二五
- 中等教員五 醫師二一
- 軍醫一 藥師二 總理大臣一 鐵道大臣一 書記官一 政治家五 新聞記者一 文學者一 學者一 化學者一 工學博士二
- 工業家四 建築家二 技師二 工學技師一 發明家一 立派な人五 裁判長一 鐵道員一六 官吏四 測量技師一 水産技師一 船長一 會社社員二 農業五 商業四 染物業一 鐵工業一 工場主一 貿易商一 海産物一 良國民一 印刷業一

來賓祝辭 水利組合管理
者の祝辭 あり終式後祝宴を催すと

助役昇格

泉村の村長

石城郡泉村では村長中村立男氏が病氣の爲め今月上旬辭職したので廿二日村會を開き後任の選舉を行つた結果助役上遠野新治郎氏が當選したと

久濱青年演習

双葉郡久之濱町青年訓練所生五十三名は昨日石城郡大野村神谷村平窪村を中心として野外演習をなし昨夕は平窪二小學校へ宿泊日本は博覽會の見學をなした

我等の「福島號」を

建造せよと

小名濱部會が献金 縣下自動車業者に飛激

自動車協會小名濱部會では目下建造中の義勇機「福島號」献金に對し自動車營業關係方面より割合に應募者の少ないのを遺憾とし部員一同協議の結果十九圓の献金を集め左記の如き主意書を添へて縣協會に送附した處縣協會でも右主意書に賛成し同主意書を印刷し全縣下各支部に檄を飛ばして献金募集に努力する事になつたと

是が成行に付注視を怠らざるものなり而して政府は積極強硬なる方針の元に外交に尤り皇軍亦壯烈なる戦闘を展開して國威發揚に奮闘せらるゝ事は吾等亦國民として實に感激措く能はざる處にして吾人は飽迄も皇軍の建國を翼くと共に最善を盡して報國の赤誠を表起せざるべからざる處なり幸にも本縣は過般來愛國福島號を製作献納し以て時局打開の一助として貢獻せん事を期し是が建造費の

據金を督勵しあるも未だ開するに未だ充分ならず只管焦慮しあるを聞く(中略)此際福島號の誕生に満腔の賛意を表するものにして一刻も早く完成せしめ以て大飛躍あらん事を期待するものなり然に現在本縣下に活動し居る運轉手は約二千餘名に達するも未だ民間何等の運轉機關なく此程據金募集に對しても全く其方法を取に苦しむものなり仍て本町在住運轉手は此際先驅として第一聲を擧げ以て全縣下運轉手各位の賛同を乞はんとするものなり

憂鬱な影さす

春の社會相

平警察署の窓口から 外界を覗く

近時平警察署の窓口に見れたところを見るにエロ味萬点の書狀即ち家出や墮落、抱女の逃走等の搜索願ひが或ひは縣外より或ひは地元から届け出されて居るのが眼につくがこれもまたく明るみの中に憂鬱に導く春の仕業であらうが右に就いての係官の言は此の四、五月が最も右様の件數の激増する月であるが一般監督の任に當る父兄や抱主は特に留意して欲しいと

馬競市

植田に開場

石城郡植田町では來月十五日より十九日迄の五日間同町字田後地内に臨時馬競市場を開場すべく此程縣當局に申請したが同市場には附近町村より百五十頭以上の出場があると

勿來産米共販

石城郡勿來町信用購買組合では

募 三勇士遺族の 甲慰金

嗚呼忠勇無比の三勇士何ぞ其の壯烈なりしぞ鬼神も爲めに慟哭せむ、實に振古未曾有驚天動地の偉業にして人生を超越し洋の東西に冠絶す、古今英雄多しと雖も蓋し三勇士に如くものなからん宜なる哉其の心情英雄以上の英雄なり、
今や同胞國を擧げて戦に赴かんとする誰か彼の三勇士に感激せざるものあらむ殊に目下外交は危機に瀕し東亞の風雲彌々急ならむとする秋、内は國民の士氣を鼓舞し外は國家の威武を宣揚する誠三勇士に負ふ處甚だ大なるを痛感するなり、
名將曰く「吾が皇國も三勇士ありて亡びず」と真に至言にして正に彼を弔ふ最大最高の弔辭なり、
然り彼等三勇士こそ日本軍人の龜鑑にして大和民族發展の尊き犠牲者なり、
吾人は彼等殉國の忠誠を永遠に紀念し併せて千古不磨の英靈を弔はん爲め彼の三勇士遺族へ海志を饒け以て聊か勇士の靈を慰んとす
愛國の士奮つて賛せられんことを

主唱 阿部政右衛門 後援 常磐毎日新聞社

- 一、弔慰金一人金拾錢均一に願ひます
- 二、右弔慰金は平驛前丸ッ阿部石炭店又は常磐毎日新聞社に御届を乞ふ
- 三、寄附者芳名を常磐毎日新聞紙上に掲載領收書に代ふ

寄附者芳名

五色町	高田 功	同	トミエ
同	同 秋 子	同	同 キクノ
同	同 藤 テツ	同	同 清
同	同 一	同	同 進
同	同 武子 榮 垢	同	同 清四郎
同	同 金成 彦 治	同	同 ハ
同	同 同 勝 男	同	同 友三郎
同	同 同 寅 雄	同	同 勝 茂
同	同 相崎 ミイ子	同	同 正 雄
同	同 同 喜一	同	同 保 子
同	同 同 昭三	同	同 宗 像
同	同 同 三	同	同 宗 像

第廿五回分

産業博の入場者は

今や十萬人突破

變態的天候に見舞れながらも

開場以來非常な好評を博し、近年稀れな人出を呼んだ昭和産業博覧會は變態的天候に見舞れながらも

好晴の日は陸續として觀覽者が殺倒し廿五日迄の入場者は既に十萬を突破したが其内の最も多數を占めたのは郡内各小學兒童で入場者の約八分を占めて居り郡外各種團體も二萬以上に達して居る

盛況であるから等は參觀者の生きた宣傳に依つて今後天候の定まるに連れ松ヶ岡の櫻散つた後のツツジと共に人氣を呼び各方面より入場者が押寄せ豫期以上の好成績を納むるものと觀測されて居る

豫期以上の成績

支部に於て中島裁判長係り關口、佐々木兩判事陪席、市川檢事立會、酒井辯護士列席の上公判開廷されたが檢事より懲役四年の求刑あり言渡しは来る三十日午前九時である

窃取品を

公設質屋に

捨て値に引取つて

石城郡湯本町上町雜貨行商人五十嵐久吉(五)は去月中より再參同町公益質店に衣類時計等を入質し金額百五十圓餘に及んで居るのを平署員が怪しみ廿五日引致取調ると去月十日當時住所不定宮城縣多美郡色淺村字高岡生れ窃盜犯笠原秀吉(三六)の窃取品と知りながら捨て値に引取り入質して居た事發覺平署に取押へらる

放火犯

四年求刑

石城郡好間村大字上好間字上野六十二番地上野彌三郎(五七)が本年二月一日午後十時頃火事場の振舞酒を呑みたさに同村大字小谷作長谷川伊佐次郎外一名の宅へ放火したる放火事件は既報の如く本日午前十時半より平

磐城セメント

稻荷祭り

余興に賑ふ

石城郡四倉町の磐城セメント工業所では来る廿八、九

植田で

剣道

爭覇戦

石城郡植田管内二町八ヶ村武徳會は来る廿九日の天長節を下して植田署道場に剣道大會を開催し優勝旗の爭覇戦を行ふと

明日の天気

廿七日

今晩は南西の風晴れ夜明けは北西の風

報豫氣天

今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間)
- お話し「忠臣伊達安藝宗重」
- 仙臺市榴岡尋常小學校訓導主任岡良一
- 後七、三〇 發明座談會
- 工學博士加茂正雄外
- 後八、三〇「小唄」立花家
- 後八、五五 長唄各曲第一
- 金八
- 後八、五五 長唄各曲第一
- 次定期演奏「越後獅子」松

大使命

警中校長講演

昨報石城郡永戸、箕輪、澤渡、三坂の聯合青年團春季總會は来る三十日午前九時より永戸小學校に於て開催されるが當日は橋本警中校長の大和民族の大使命と題する講演がある

ハリ金一本で

世渡り出来る

豪語する怪賊

石城郡夏井村字下大越農坂本善兵衛方に廿五日午後十一時頃一名の怪漢が忍込まんとしたのを某事件の爲め同村地内を警戒中であつた平署員の爲め取押へられ直に平署に押送されたが同人は新潟縣佐渡郡相川町二丁目生れ窃盜前科十一犯青木竹四郎(六)と云ふ強か者で郡内數件の窃盜を自白したが同人は常に懐中電燈と一尺餘の針金を所持し居り此

細菌保有者

一名もなし

に於ては昨年腸チブス及バラチブスに冒された石城郡下の百十四名に對し昨日細菌保有者再調査を施行したが保有者一人もなく成績良好であつたと尙被調査者の管内別は左の如くである(平)男三十四名、女四十

磐女新舞子へ

高等女學校にては来る三十日新舞子へ全校生の春期遠

- 「皇室中心の道徳」御用掛 文學博士本多辰次郎
- 前二、〇〇 講演「歐米の日本に對する認識不足」(日本語・ヨルン・レオ)
- 後二、五〇 運動競技「六大學野球リーグ戦試合状況」明治神宮外苑球場より中継
- 後三、〇〇 吹奏樂 大阪市音樂隊
- 後三、二〇 三曲 平井美奈勢外
- 後三、五〇 浪花節「神崎與五郎の生立」雲井雷太郎
- 後三、三〇 映畫物語「光に叛くもの」樋口旭瑠
- 後六、〇〇(子供の時間)
- お話し「摘草」恩田經介
- 後六、三〇 講演「結核絶滅には國民總動員を要す」結核豫防協會理事長醫學博士金杉英五郎
- 後七、三〇 俳諧 雲井如月外
- 後七、五〇 ラヂオドラマ「發明家の家族」瀬戸口英一作 伊井蓉峰外
- 後八、四〇 新講談「幕末の三傑人」(第一席)伊藤痴遊
- 後九、三〇(奉天より)

納税表彰

昨報平町優良納税組合表彰式は本日午前十時より役場内會議室に於て左記順序に依り舉行され終つて松ヶ岡公園に觀櫻會を催した

八十一圓拾得

郡玉川村大字岡小名字岸渡邊ミヤ(三)さんは今朝午前八時頃所用の爲め平町に出掛け驛前田町通りを通行中現金八十一圓二十五錢入り褌口を拾得直に平署に届出た處右は田町十九山下セネが遺失したものと判明無事本人に渡された

求職の部

- △看護婦見習 十七才 看護婦學校卒業 給料面談(平町某)
- △雑婦 二十八才 高女卒業 給料面談(内郷村某)
- △土工夫 三十一才 高卒 給料面談(東京市淺草某)
- △書生 十九才 高卒 給料面談(好間村某)

信榮の同窓會

平町信榮幼稚園にては来る卅日午後一時から同窓會を催すと

求職の部

- △求職者の部
- △豆腐賣子 四十以下 尋卒 賣上の二割(平町某)
- △農夫 四十五位 委細面談(鹿島村某)
- △炊事婦 四十以下 日給八十錢(某小學校)
- △女中 五十前後 尋卒 月五圓位(平町某)

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

〔第卅六席〕 神影流の達人秋山要手
角力から大事が

寄居八幡宮祭典の當日境内に設けた、素人相撲飛入りが力自慢の漆畑を鐵砲にて勝利を得た、飛入りは俺の力を見たかと云はぬばかり見物をズート見渡す、スルト東の溜からそれへ出て来たは色の淺黒く肥た體格の持主、締込みもして戦闘準備が出来てゐる

○「オイ行司、わしがこの飛入りと一番取る」
行「お前さんの名は何といふナ」
○「狐塚の藤兵衛といふ者だ」

作「ア、狐塚か」
と行司の作十郎が
作「東西此方飛入り、此方も飛入りにて狐塚——」
名乗を上げた

○「これは面白いぞ、飛入りと飛入りとが相撲だ、其れに狐塚とは違つた名だナヤイ負るなよ……」

と見物が聲を掛ける、二人は清く仕切つたがヨイシヨと云ふと立上つた、此時先の飛入りはポーンと狐塚の胸を突いた、これはこの人の得意の鐵砲、アツといふと狐塚が土俵から轉げ落ちた、見物はこれを見て「ん

でゐる、スルト飛入りは土俵に突立ち
飛「俺の相手になる者は無えか、是程居る人間の中には米の飯を食つてゐる奴もあるだらう、さア出る、相手が無ければ此處にあるこの米は褒美として貰つて行くぞ、相手は無えか」
と云つたが、その態度の憎い事
○「あの野郎は何處の奴だ偉さうな事を云ふが」
△「あれはナ小川の親分の許に居る勝藏だ」
△「ウン鐵砲勝か、さういはれて氣が付いたが、正面



それにしてあの鐵砲野郎を退治する程の強い奴は出ねえかの」
△「さうだナ、名主さんが出たならば鐵砲に勝つであらう」
○「狐塚でも無えヤイ誰も出ねえかよ……」
とあとから出る者と呼ん

え」
○「成る程これは主の云ふ通りこの相撲から大事が出るぞよ」
と人々はこんな事を云つてゐる、鐵砲勝は相手が無ければこの米は俺の物だと俵へ手を掛けるを
○「オイ待て、勝待て俺がてう取らう」
衣類を脱いで締込みをしてそれへ上つて来たはこれ
も大きな男
勝「ウン汝は首か」
音「音五郎だ、少しばかりの力を鼻にかけ大層なごうたを並べたナ、俺が相手になるからには鐵砲であらうが地雷火であらうが屹度しとめて見せる寄居の音五郎のある事を知らねえか」
勝「些ツとも知らなかつた然し俺の相手をしようとなつた来たは感心だ、さア來イ俺の鐵砲うを受けて見ろ、次第によると骨が碎けるぞ」
音「その自慢は勝つた上で云へ、ソレ來イ」
ピタリと仕切つた、この勝負に身が入ると見物はズイと乗出した、呼吸が合つたか二人はサツト立上る、此時勝藏がバツと突出した鐵砲う、音五郎はウンと應へて進み寄り、左を一本差して右で勝藏の鬚をムツと押へて引倒さうとした、これでは喧嘩であるか相撲であるかが判らない、行司はまご／＼してハツケヨイのこつた／＼と、土俵をグル／＼廻る、其内に勝藏は音五郎をズツと抱き一振り振つて更の溜へ投込んだ、見

物はこれを見てワツと聲を揚げた、勝藏は胸をトんと叩きどんなものだと感張つてゐる、此時機敷でこれを見て居た櫻井五郎は虎五郎に向ひ
五「親分手前が出てあの勝藏を仕留て遣りませう」
虎「先生が出る程の事は無からう、まア／＼勝に感張らして置くが宜い」
五「イヤさうでござらん、あゝいふ馬鹿者は懲してやらぬと益々附上る、ちよつと退治して遣りませう」
と機敷を下つた。

貴金屬
時計及眼鏡類
懷中電燈
キミガヨ電氣
ランプ特約店

高橋時計店
平町掻掻小路

淋病 皮膚病 婦人病 胃性病
梅毒 腸病 腸胃病

松村 院醫科
平南町 電話一〇七

磐城セメント會社特約店

久益屋商店

磐城平町五丁目 電話九番九九番

良品廉賣に勝る商略なし
確實敏捷は 〆の生命なり

人の心配無用のロクマクの人

不治の病とは過去の事です、醫藥を用ひて抄々しくない方靈能偉力を有する「マムシ」を用ひて下さい、但し素人の幼稚なるマムシの服用法にては効果ありません、今回研究部員が秘法公開致します、遠慮なく相談にお出下さい、
◎特にオススメ致し度い方説明書差上ります。

心臓病の人 胃腸病の人 性力欠乏の人 神
經衰弱の人 体力の衰へる人 食慾なき人
冷性婦人病の人 腎臓病の人

東京市淺草田島町九一川上蛇類研究所
平町五丁目二二(金光堂時計店裏)
代理販賣所 井内

踏デモ叩イテモ

絶對コハレヌ時計硝子

丸型時計入替 二十錢
角型時計入替 四十錢

秋山時計店
平 前

小兒ノかんむしニあかひき丸堀藥局
平町二丁目 電話三二六